甲斐市立敷島中学校 自己評価書（後期）

平成26年1月24日（金）作成

校長 新海 賢一

記述者 職名（教頭）河野 良一

学校教育目標 「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

- ・課題意識をもって「自ら学ぶ生徒」・・・知
- ・豊かな感性と思いやりのある「心豊かな生徒」・・・情
- ・何事にも全力をつくしてやり抜く「よく働く生徒」・・・意
- ・生命を尊重し、心身共に健康な「体を鍛える生徒」・・・体

学校経営方針 生徒一人一人の「生きる力の育成」へ向け

- ・学ぶ意欲を高める教育課程の編成
- ・個性を伸ばす教育の充実
- ・よりよい生き方を求める道徳教育の実践
- ・人権の尊重や福祉、国際感覚に満ちた生徒の育成
- ・生涯学習社会にふさわしい地域に開かれた学校づくり

1 全体評価

本校の評価を総合的に見ると、全46項目において肯定的意見が最頻出(A30項目、B16項目)となっており、全般的に高い肯定率となっている。また、前回より肯定率が高くなった項目は11項目ある。特に校長の経営方針や、生徒指導面において共通理解が図られるなどの成果が現れている。

しかし、前回より数値が下がった項目も13項目あり、継続した改善が求められる。また、生徒アンケートや保護者アンケートの結果と比較すると職員の評価と若干のギャップが見られるものもある。生徒や保護者の要求レベルに応えながら、学校の基本方針を踏まえ、重点事項を明確にして取り組んでいきたい。

これらの結果を全職員で共有し、さらによりよい教育活動が展開できるように、次年度へ向けた計画を立てていきたいと考えている。

次年度へ向け、よりよい教育活動を展開するために改善等が必要な項目を挙げてみると

① 学校教育目標・学校経営について

学校教育目標、校長の方針を全職員が共通理解している現状を堅持し、PDCAサイクルを踏まえた教育実践を継続していく。

② 学校運営について

学校安全や危機管理、情報セキュリティ等への意識は定着してきた。職員会議や校内研究への関わりについては、主体的な参画意識を高めていきたい。

③ 学習指導について

校内研究を中心に授業改善に取り組んでいるところである。また、一人一人の実態を把握し個に応じた指導や家庭学習の指導を重点的に取り組んでいく必要がある。

④ 生徒指導について

校長の方針の下、情報共有と共通理解に基づいた指導ができた。今後も深い生徒理解とコミュニケーションを基本としながら、生徒指導の充実を図りたい。

⑤ 地域との連携について

地域の声を聞く、学校の様子を発信する等の方策を充実させ地域との連携を図る。

⑥ 本校の特色に関して

本校の特色である朝読書・鍛錬・合唱については、引き続き充実した活動となるよう、本質を理解させながら継続指導していく。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<p>◎ほとんどの項目において、高い肯定率を示している。</p> <p>○職場の福利厚生や健康管理に配慮がなされてきている。</p> <p>○PDCA サイクルを踏まえた教育活動がなされてきている。</p>
改善継続策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標，学校長の方針に基づいた教育実践を今後も続けていく。 ・調和の取れた校務分掌，職員の健康管理や服務規律への適切な取組み等により，笑顔で健康的に生徒に接することができるよう，今後も互いに支え合う雰囲気を作っていく。
II 学校運営について	
達成状況	<p>○職務上の「報告・連絡・相談」，安全点検，情報セキュリティ等については高い肯定率となっている。</p> <p>○各自が校務分掌を意識して，教育活動を行っている。</p> <p>△職員会議や校内研究に，主体的に関わっていないと回答する教員がまだ数名いる。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全や危機管理は喫緊かつ重要課題である。今後も高い意識をもって行動していかなければならない。 ・職員会議，校内研究ともに前期を下回っている。個人的な資質向上とともに内容的に充実したものになるよう取り組んでいかなければならない。多くの教員が多忙感を抱いているが，学び合う，教え合う，支え合うことにより学校運営への参画意識を高めていきたい。
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<p>◎「基礎基本の定着を図る授業」については，前期後期ともに高い肯定率となっている。</p> <p>○「習得・活用・探求を意識した授業改善」には多くの教員が取り組んでいる。市指定の研究テーマや校内研究のテーマとリンクし定着してきている。</p> <p>○生徒アンケートの「授業は楽しい」(75.2%)，「先生は良く勉強を教えてくれている」(94.6%)の肯定率が高くなっている。</p> <p>△宿題や家庭学習に対する指導は，職員間で共通した高い意識とはなっていない。</p> <p>△保護者アンケートの「宿題の他にも家庭で自主学習」をする割合は，低い状況となっている。(44, 7%)</p> <p>△生徒アンケートの「家庭学習が1時間以上」と回答する生徒は増えたが(45.6%)，30分以上59分が最多頻出である。(30.4%)また，全くしない生徒も多数いる。(9.7%)</p>

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、小集団で学習する場面や発表する機会を増やすなど多くの教師が活用力を高める授業に取り組んでいる。今後も継続させていく必要がある。 ・学力向上の面からも、家庭学習の充実が重要であるという認識はもっているものの、具体的手立てについて全職員が情報交換し、有効な方法を実践していかなければならない。
IV 生徒指導について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ◎生徒指導上の課題点を職員が共有し、生徒の健全育成のために保護者や地域及び関係機関との連携が図られている。 ○生徒指導部会や不登校対策委員会が有効に機能している状況である。 ○生徒アンケートの「学校のきまりや約束事を守る」生徒の割合が高い。(94.3%) ○保護者アンケートで「学校は、子ども達の間違った行動などに対して指導している」と感じている割合が高くなった。(79.4%) △相談できる教師の肯定率がやや低い。(生徒 53.7% 保護者 53.7%)
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会や不登校対策委員会は単に情報交換にとどまらず、生徒の内面に迫る部会をめざしてきた。このことは、校長の基本方針である「生徒との心のふれあいを深め、生徒理解に基づく指導の充実」につながるもので、継続していきたい。 ・困ったときに相談できる教師の割合は、生徒は前期に比べ高くなったが、保護者や地域からも更に信頼される教師であるために、学習指導、生徒指導、教育相談等の一層の充実を図っていかなければならない。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○全体として保護者との連携・協力は肯定的意見が多い。特に PTA 活動に対しては保護者の協力、教師側の主体的活動ともに高水準である。 △保護者や地域の要望を聞く機会や学校の教育活動の様子を保護者や地域に広報することがやや不十分である。 △地域の行事に参加する割合が生徒アンケートで 45.7%，保護者アンケートで 33.7%と参加率が低い。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での様子については、各種通信(学校便り等)で発信しているが、確実に保護者や地域に届くようにすることを考えなければならない。家庭や地域との連携が学校教育にとってきわめて重要である、このことをもう一度全職員で確認し更なる情報収集、情報発信を行っていく。 ・学校としても地域関連の行事をすべて把握していないところもある。学級指導等において地域行事の意義や主体的に参加する姿勢をはぐくむような取組みをしていく。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての項目において高い達成率となっている。(5項目中3項目で100%) △本校の特色ある教育については、その意義を再確認しながら更なる発展・充実をめざしていく必要がある。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・全体的にみて、学校教育目標を基本とし、学校長の経営方針（身を置く場所に誇りを持ち、和を基調とした愛情あふれる学校を作る。行事を通して生徒を鍛え育てる。）が全職員に浸透している。また、報告・連絡・相談等が機能し、情報共有・意思統一等がなされている。いじめ防止への取組みも全職員が目標を立て取り組むことができた。
- ・昨年度及び前期の結果を受けて、重点的に取り組むことを明確にして実践してきた。主に授業改善や学級集団作りについては、ほとんどの教員が力を入れて取り組むことができた。今後も、学校教育目標・学校長の経営方針と各自の自己目標に整合性を持たせ、見通しを明確にした教育実践をしていきたい。
- ・学校長の指導の下、職員自らが健康で明るく生徒や保護者、周囲の人に接することができるようにしてきた。今後も互いに支え合う雰囲気や大事にし、心身の健康を維持しながら教育活動に当たりたい。

〈課 題〉

- ・我々教員の本務たる学習指導・学級集団作り・生徒指導等においては各自が努力しているところである。しかし、生徒や保護者の要求レベルに応えるためにも、また、独りよがりの評価にならないためにも、学びあう、教えあう、支え合うことがより必要になってくる。学年会議など小集団の中で取り組んでいきたい。また、職員会議や校内研究に全職員が積極的に参画していかなければならない。
- ・家庭や地域との連携は、今日の学校教育においては不可欠な要素となっている。本校の教員も家庭連絡等はこまめに行っているが、地域社会へ目を向けることがまだまだ少ない。身近なコミュニティーの良さを教え、地域行事への参加を促すなど、正に地域社会との連携を深めていかなければならない。